



野菜の収穫

2学期も終わりに近づき、1年生はダイコン、2年生はカブ、3年生はコマツナを収穫しています。農大稲花小の畑で育てた秋冬の野菜、畑の先生湯浅さんの指導で、今年も豊作となりました。収穫した野菜は、子どもたちが自宅に持ち帰ります。ご家庭で、さぞ話がはずむことでしょう。スーパーマーケットなどで野菜を見る眼も変わるに違いありません。

コマツナといえばおひたしが定番かと思っていましたが、聞いてみると「バナナと一緒に食べました」という子どもが複数います。スムージーにして味わったのですね。また、カブを収穫した翌日は、2年生の遠足でしたが、お弁当にカブが入っていた子どもたちがいたと聞きました。早速、お弁当に活用してくださった保護者の皆様にも感謝です。

自分を律する

子どもたちは、静かにしなくてはならないときでも、友だちにつられて思わず楽しくなり？騒いでしまうことがあります。低学年では、とくにそのようなことが起きます。ほかの人に影響されずに、正しいふるまいができるように育ててほしいと願うところです。本校の教育の指標「10の能力」でも、「自律力」として掲げてあるとおりです。

そんな中、教員がやむをえず教室を離れて戻ってきたとき、全員が静かに読書をしていてびっくりしたという話を聞きました。低学年の子どもたちです。子どもたちに聞いてみると、先生が教室にもどってきたとき、静かにしていてびっくりさせようと思ったようです。日直の声掛けで、皆が協力して静かに待っていたそうです。一人一人ががんばることも大切ですが、友だちと一緒にがんばって正しいふるまいができるというのも、素敵な進歩です。大いに子どもたちをほめたできごとでした。このような素敵な進歩が、毎日どこかで起きているのも、農大稲花小の素敵なおところといえます。

新江ノ島水族館へ

12月1日、2年生は遠足で「新江ノ島水族館」に行きました。2年生になると班活動が増えてきます。この遠足も6人一組での班での行動が基本です。前日までに班長を決めたり、班の行動予定をたてたりして準備を重ねていました。

班の中でのめもめがないわけではありません。出発前も、大丈夫かな？と心配な班もあったようです。しかし、遠足から帰ってきた子どもたちの顔は、皆、晴れ晴れとしていました。急に寒くなった日なので、寒さに震えている子どもも多くいましたが、口々に水族館の話をしてくれました。自分のやりたいことと、友だちのやりたいことや班でやるべきことの折り合いをつけることを、子どもたちは大人が心配するよりもしっかりと学んでいるようです。

イルカショーを見た後、保護者の方がご準備くださったお弁当をいただきました。その前後には、班ごとに、珍しいシラスの生体展示、相模湾を模した大水槽、川の魚や海の様々な魚、思わず引き込まれる多様なクラゲ、ペンギン…などを楽しんだ子どもたちです。友だちと一緒に水の中の生き物の魅力を味わった一日となったことでしょう。

お米をいただきました

本校の全児童が、このたび、東京農業大学の元職員で卒業生(校友)でもある上田 勉様と 農業組合法人いちよう なかはた農園 代表 中畠由博様(熊本県山都町 在住)から、熊本県山都町の棚田米 1 kgずつ、合計 300 kgをいただきました。

上田様もまた、熊本県山都町のご出身で、毎年、山都町のお米を農大稲花小の子どもたちにプレゼントしてくださっています。朝晩の寒暖差が大きく、夏でも涼しい高冷地でじっくり育つお米は、味がよいとされています。また、山都町は 2021 年に「2021SDGs 未来都市」に選定され、さらに、全国 10 都市が選ばれた「自治体 SDGs モデル事業」にも選定されています。山都町はどんな場所なのか、棚田はどんな様子なのか、ご家庭でもその味を楽しみながら、子どもたちと興味・関心を深めていただければと思います。



◇なかはた農園 <https://ichigoya.jimdo.com/>

◇熊本県山都町 <https://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/>

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子